

空山に想ひをもつて

空山に想ひをもつて(まの通信) Vol.52 2021.7.1

28日のおやばっかは康平さんによるお箸づくりと日本の森の話、ふくはうちでの柴田愛子さんの文章を読んでの皆さんとの「今」を聞き合う時間。いろんな気づきをもらえ、そして今イチオシの空山田給食室の給食も超絶おいしかったです。(参加できなかった方々、スタッフごめんなさい。)

一人ひとりの課題や今の思いを聞き合うことは、話している人だけのことではなくみんなのこと、他人事ではないと考えています。

ゆっくり、話を聞き合う時間はとても良いなと、いつも思いますし、ある種コウ・カウンセリングになっているのではないかと感じています。

わたしも子育て中に、こんな時間が持てたらよかったです。

その中で出た話で、どうしても「いろいろ言い続けてしまうんです。こぼさないように、口に入れすぎないように昨日の言ったでしょ、さっきも言ったでしょ！」と。その時私は、「こぼさないように食べやすい大きさを工夫してみたら？」なんてばやばやした感じのことを言ったと思うのですが、夜もう一度思い返してみて、いや、違うなと考えだし・・・

言い続けることだけでは、子どもは変わらないだろうなーと。

言われ続けること、言い続けることは両者共にすごくストレスだらうなと思いました。

じゃあ、どうすればいいのだろう。もう、一回あきらめ? てもよいかも。言い続けても変わらんし、できるようにならぬのです。そしていつか必ずできるようになるのですから。真剣に伝えることも大事ですが、親は怒っているときは早口で高圧的になりがちですが、ゆっくり落ち着いて話をしてあげることも大事なんじゃないかなと思ったり。あと発達的にまだ無理なことを、ずっと要求しているかもしれないかもと立ち止まって見極めていくことも・・・暮らしの中で、どれだけ認められているかということもすごく作用するのではないかと。指摘や注意だけでは人って変われないですよね。大人もね。イライラしますよ。子どもは思う通りにはならんのですよ。そこはできる限り目をつぶり、スルーしてみたらよいかもね。子どもだからしょーがないなって。親は楽しいこと見つけて、わくわくできることを増やしていきましょうよ。乗馬とか(笑)そんな姿をたくさんみせると、大人って楽しそう。ああたりたいと感じますよね。親も子も機嫌よく過ごせる時間が少しでも多くありますように。自分の機嫌は自分でしかどうにもならないものですよね。そんな風に考えていたら大好きな詩人の茨木のり子の「自分の感受性くらい」のことを思い出しました。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、読んでみてください。すごく好き。背中を押されます。

今年も折り返しますね。下半期などどいう単語にざわざわします。

でもどんな節目でも結果バタバタの私なんだから、あー、とか、もーとか思わず目の前のこと精一杯するしかないな。と心に誓っている6月の末の私です。

1期も2週間とちょっと。楽しく安全に過ごしていきます！！

6月

広い広い広い(エッジの日から)

ゆめぐみときほうぐみで越路神社までお散歩、「これからが塔に手を当て歩けば後ろの子もづき、真似、子真似っこ。小さな川を見れば“あめんほ”いたよ！“うつ伏せして見きこんだり、誰にもせがされることなく子どもたちの今の歩幅でゆっくりゆっくり歩きました。

歩くだりでなく、途中背の高い草を見たり、坂こうとおりが“なりなか坂”、絵本の「大きなかぶ」のように友だちが友だちを引張りあい、“うんこしてどうこいし”といろんな寄り道を楽しんでから越路神社まで行きました。

としくんが“進んだり、戻したり”で“なことに気がいたはるくん、みがちゃん、ちくんが”“としくん”と一緒に歩く、一緒に越路神社まで歩く様子もありました。

いろんな友だちに：隣呼を手ら、隣ねるとしてたり、遊びとともに友だちは、かでの時間での樂しみ方に広がりがでてきたように感じた6月でした。

7月、本格的な夏が始まります！水遊び、川遊び、子供も「ちのやつ」にいの芽を大事に見守りながら遊びを楽しんでいきたいと思います。



暑い日が増え、プールをだして水遊びをする日が増えてきました。ホースをぶんぶんと回してくるに水の動きを楽しんだり、ホースから勢いよく水から逃げて走ったり、プールにタライを浮かべてみたり、ホースの先にブラシをセットしてシャワーのように水がでてくるのを楽しんだり、大の字になって日向に寝転がってみたり etc…遊び方は無限大。ここまで自由に遊びきるのは、ここがパッカだからだと、心底嬉しく感じています。

砂遊びでは、今まで個々で創造することを楽しむ姿が多くありました。最近は友だちと一緒に何かを作る姿がよく見られています。女の子同士で庭やキッチンの場所を相談しながら、一緒に家を作り上げたりしています。

泥で作る粘土遊びも盛り上がっています。粘度の高い土を掘りだし、それをカナヅチで碎いて水で溶き、ザルでこしてトロントロンにして、天日干しして固さをだし、形を作り、更には「これを、焼いてみたい！」と、焚き火で焼くという、陶芸家のような遊びを繰り広げています。その活動にむかう集中力は凄まじく、時間を忘れて没頭しています。いろいろな土があること、焼きたいと思えばすぐに火をおこし、焼くことができること、これもパッカならではだと思います。のびのびとできるこの環境に感謝しながら、ここでしかできない保育をこれからもどんどん展開していきたいと思っています。



ウマに「このヒトは身内だ」と認めてもらうために、いちばんたいせつなのは、

毎日「そばにいる」ことだ、と思います。

ごはんをあげたり、お掃除したり、というような、日常のふづうの作業やウマの近くで、ぼうっと考え方をしたり、昼寝をしていてもそれだけで「そばにいる」時間が積み重ねられています。

ウマは「なにも起こらない」おだやかな状況に、幸福を感じる生き物です。その幸福な日常にあなたがいる、というその事実がウマにとっての身内意識をつくってゆく気がします。

はしごこに、馬といる ウマと話そうⅡ 著：片田 桂 より

朝、なづくんとゆかこちゃんと嘶く馬に朝餌をあげています。

りんなが「下の馬みにいこー」と私の手を引っ張ります。

めいちゃんがタマが食べやすいようにハイキューブのブロックをとんからで粉々にします

りょうたんが「馬房かくれんぼしよ」と誘ってくれます

ちいとみかとれんくんが馬房で何やら話をしています。

ぱっかがみんな遊んでるそばに馬がいて、まいにちまいにち「そばにいる」ことを繰り返しています。そんな日々を繰り返して、馬にとっても人にとっても、「身内」になっていくのだと思います。

そうなったときに「掃除してあげたいな」とか「ごはんはおいしそうに混せてあげたいな」とかいう愛情が生まれてきて、お世話したくなったりするんでしょう。

馬の世話は誘いはするけど強要はしません。本人が「やりたいな」って思ったときにすることが、ほんとの愛情に近いかもしれない。と思うから。

これからもみんなと馬のそばにいつづけたいな、と心から思います。

なづちゃん

早くも1期が終わろうとしていますね。これから来る夏が楽しみでワクワクしています。のんちゃんがぱっかに復帰して3ヶ月が経ちました。今年度は、4月から1年間子どもたちの成長を見届けられる初めての年です。残り少ない1期の姿をしっかり見つめていきたいです。
えみちゃんとりょうたくんがぶつかり合っててしまったり、そうたは少し輪に入れなかつたり、4月ならではのざわざわを乗り越えてきました。そらぐみ会議を何度かするうちに、4人の結束力が強まっていくのを感じています。

クッキングでは火当番から野菜切り、お味噌を溶き、ごはんやお汁を配っています。本当に良い力を出してくれています。ありがとうございます、とたくさん声をかけられて、とても誇らしげ。こんな風に「役立つ」という経験が、自信や肯定感につながっていきます。

登山では、ぐんぐんと歩く足の力、食べ物を見つける目、匂いや音、体全部を使っています。靈石山の山頂に着く瞬間、「ああ～、やったー！！！」と喜びの声をあげていました。もうダメかも、と諦めそうになったり、狭い道で押し合ったり、楽しいことばかりではない登山。心も動かされる大事な時間です。

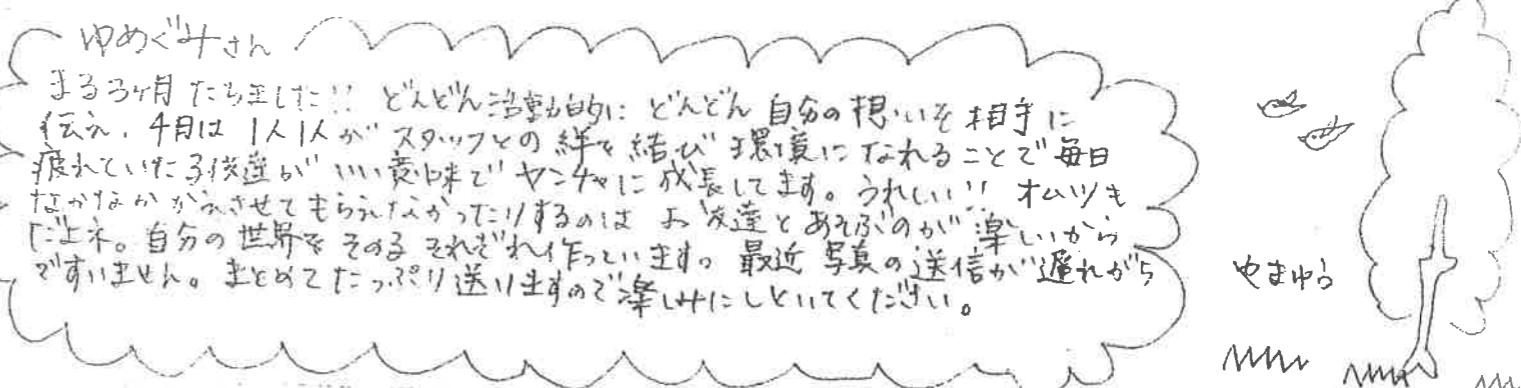
ふと、ちいおもを書きながら、ぱっかの“そらぐみ”ってなんなんだろう。と考えました。頼りになる兄さん姉さん、優しくてあたたかい、そして思いっきり今を遊んでいる、今はそんな言葉が浮かびます。まだまだぱっかの楽しいは終わらない！卒園まで一緒に育ち合いたいです。

あつという間の1ヶ月。

子供の時はそれは風に思われなかったのは、楽しいことがたくさんあり、それが「待ち遠しく、時間が過ぎるのが遅く感じるけれど、大人は楽しいことにエリモセねばならないことが多過ぎて日々が早く経つようになりながらだと誰かが言っていた。私もたくさん楽しい未来を考えよう！！（ほっちゃんのんちゃんみたいに超特急のコンサート行くとかね）

梅雨を楽しもうと前回のちいおもで書いたのだけど…あいまり雨はなくて、蒸し暑いだけで“体が”慣れない今年。もっとシャツとズボンと長靴の中をひうちんこで、雨をためる道具にして、着替えるのも諦めようかと2年ぶりに体験するのを覚悟した梅雨…降らない雨。雨工かかるこーい！降る時は降ってほしい。

梅仕事、子供達の心にどう届いてるかな？ らきゅう浸けたの覚えるかな？ いに残っているといいかも。子供達からおうちで、ふともれに一言に色々ヒントがある気がして、楽しいことも悲しいことも嬉しいことも嫌なこともあります。子供達のSTEP UPの手が分りに、よりいい見守りのために、子供 STAFF 向上のために、共有できたらと想います。子供達に寄り添ってその子にあわせた育ちや受けとめのために保護者さんとSTAFF がより繋がることが大事だと感じます。もうちごの様子、親として見らうこと…どんどん教えてほしいです。



今年春、人生で初めてウシがエレのおにまじやくしを見つけました。
そしてついこの前、国府の奥でオニヤンマのヤゴを見ました!!
こちらも人生初々 どちらもあまりの大きさにびっくりの
いくつにもしても 人生初といふことが身边にやまほどあるのが自然です。
知れば知るほど おもしろいものが増えて、また見つけなくなる…といふ
子どもと一緒にいるよ、ホント。

話は変わりますが、最近急にマダニが増えたなあと感じています。1枚でも例年の倍以上の件数じゃないかと。
この前、1ヵ月と2ヵ月組み出合いの森に来てもらつた一澤さんに聞いたら、
「シカが増えているのと関わりがあるのでは」と思っています。
兵庫側からどんどん入ってきて、実は鳥取東部の森林 林床は植物が食べつくされています。
毒のないものはカリ残りますよー」と返事が返ってきました。
國府の奥で 農業をされている方から この冬 その地域でシカが大移動している車両を見せてもらいました。
17頭!! 鳥取ですよ。しかもすぐそこです! 大豆を植えてもほとんど食べられてしまうようです。
うちの庭にもイノシシがやってきて じゃがいもやトウモロコシを食べてしまいました...。

シカー！イノシシー!! と鬼っこいましたが、食べやがなって
昨日 知田さんの看板の後、「森の牛入れがしてなくて、草が落ちて里に降りてくる」という話を
子ども達といっしょに聞きました。 そっか やっぱり人間に関係があるのか…と「ふと反省」という
良い異常に暑さや冬のどか寒い台風の強さなど特にいればいほど 体感する環境の変化、
自然いのちを身边に感じるそれが「森のようちゃん」だからと思いまます。
ついでに、娘に聞かれて「タニの存在意義」も調べたところ「森の掃除屋」と「實際 ぶち葉や枯れ枝を
落として、彼らの糞をバケツアガ植物の栄養に変えてくれる」と。全く掃除するのではなく、夫に生きる